教科書検討の観点から見た内容の特色①

※■は主な教科書の関連ページ
丸数字は学年、そのあとはページ数を示しています。(例：■③12-13 → 3年P.12-13)

教科書検討の観点		「小学社会」の特色
1　教育基本法及び学校教育法との関連		
(1)教育基本法への適合		●教育基本法第1条の教育の目的と、第２条第１項から第５項に示されている教育の目標の達成をめざした教科書となっている。 ①広い知識・教養と豊かな人間性　②人間尊重の精神と自主自律、勤労の精神 ③公正公平と公共心　④自然愛護・環境保全 ⑤伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度と国際理解、親善の心
(2)学校教育法への適合		●学校教育法第30条第２項に示された「基礎的な知識及び技能の習得」、「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の育成」が重視されている。
2　学習指導要領との関連		
①教科の目標について	(1)社会科の目標達成のため、児童の学びを支援し、社会的な見方・考え方を生かした問題解決的な学習に取り組むことができるよう、適切に示唆されているか。	●学習指導要領の社会科の目標、学年目標・内容、内容の取扱いなどをふまえて、児童の発達の段階と興味・関心を考慮し、社会的事象を適切に教材化した単元構成になっている。 ●各学年の教科書の巻頭には、児童(たち)の多様な素朴な疑問から、学習問題をつかみ、追究することで考えを深め合い、解決していくという**問題解決的な社会科の学習の進め方**を、図を用いて、わかりやすく提示されているページと、教科書の使い方のページが設けられている。これらのページを活用することで、**「児童一人ひとりが調べ、ともに考え深め合い、表現しながら問題を解決する社会科学習」**としての教科書の構成と使い方をつかむことができるように配慮されている。(■全学年2-3) ●社会的な見方・考え方の三つの視点(空間、時間、相互関係)と方法をより具体的に示す**「見方・考え方コーナー」**を設け、児童の発言から出た社会的な見方・考え方を評価する場合と、社会的な見方・考え方を示唆する２通りの示し方がされている。(■⑥30、37、75、136) ●原則、左ページ脚注に、問題解決的な学習の過程と対応した「脚注インデックス」が設定され、主にどのような力をつけるページかがわかるように示されている。
	(2)国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の育成へのくふうがされているか。	●教科書本文が、児童に学習内容や学習活動がわかりやすいよう、**「学習内容(知識の内容)」**、**「学習活動(技能を伴う活動)」**、**「友だちの発言(思考力、判断力、表現力等を活用した話し合い)」**の三つに分けて表記されており、学習指導要領が要請する資質・能力**(三つの柱)**の育成のために有効であると考えられる。 ●人権・福祉、伝統や文化、平和や国際理解、環境、ICTなどの現代的な諸課題についても、各学年において、SDGsと関連させながら、児童の発達の段階に応じて取り上げられている。 また、平和で民主的な国家及び社会の主体的に生きる形成者としての資質や能力の基礎の育成が、次のように図られている。 (1)地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化についての単元が、児童の発達の段階及び学習指導要領の目標と内容に即し位置づけられている。そのうえで、資料や調査活動を通して情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけられるよう、資料などの紙面配置をくふうするとともに、**「学び方・調べ方コーナー」**が設定されている。 (2)社会的事象の特色や相互の関連、意味を**多角的**に考えたり、社会に見られる課題を把握して、解決に向けて社会への関わり方を**選択・判断**して表現したりする力を養えるよう、単元の随所に**「見方・考え方コーナー」**、**「キーワード」**、**「むずかしい言葉」**、**「コラム」**、**「やってみようコーナー」**が設定されている。また、単元の終末などでは、対話的な学びを示唆する児童との話し合い(深め合い)やふり返りの学習が充実している。 (3)地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことのたいせつさについての自覚などを養えるよう、各学年の目標に即し単元が設けられている。
②内容構成について	(1)学習指導要領の内容の改訂に対応しているか。	●中央教育審議会答申で示された具体的な改善事項をふまえ、内容の見直し・改善を図り、各学年について新教材・新単元が開発されている。 ●政治の働きへの関心を高め、内容の充実を図るため、政治に関する単元が６年の最初の単元に配置されている。(■⑥8-59) ●地図帳の活用については、３年から使用を促すよう配慮されている。(■③12、158-159)

教科書検討の観点		「小学社会」の特色
②内容構成について	(2)学年の発達の段階、児童の興味・関心などを考慮し、各学年の内容に対応しているか。	●全学年を通じて、児童の立場からの発言や話し合い、児童のもっている力を最大限に発揮した調べ活動や表現活動、学習内容の整理の仕方、多角的な思考や選択・判断の内容などが示唆されている。その際、作業的・体験的な活動が、児童の発達の段階をふまえて位置づけられている。 **第３学年　…　市を中心とする地域学習** ●３年では、市を中心とした地域社会に対する誇りと愛情、地域の一員としての自覚を養うよう構成されている。第１大単元の市の学習では、**生活科との接続**に配慮するとともに市に重点を置き、地図帳の活用が図られている。第３大単元の安全を守る人々の学習においては、単元の終末で選択・判断する力の育成が示唆されている。第４大単元の市の移り変わりの学習では、多文化共生の取り組みや少子高齢化などによる地域社会の変化が取り上げられている。 **第４学年　…　都道府県を中心とする地域学習** ●４年では、都道府県を中心とした地域社会に対する誇りと愛情、地域の一員としての自覚を養うように構成されている。第１大単元では、都道府県のようすを学ぶとともに地図帳の活用が図られている。第３大単元の自然災害の学習においては、自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々のくふう・努力などについて示唆されている。また、この第３大単元や、健康なくらしについて学ぶ第２大単元などでは、選択・判断する力を養うことができるよう配慮されている。 **第５学年　…　我が国の国土と産業** ●５年では、国土の学習を学年の最初に位置づけることで、中学年の地域学習をふまえ、自然と産業との結びつきを捉えやすい。また、国土の環境については、第５大単元として学年末に設定され、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを捉えやすい。食料単元と工業単元では、最初に産業の概要を学習し、その後で具体的事例を学ぶ構成にすることで、単元のねらいによりせまることができるようにしている。情報化の伸展に伴う生活や産業の変化については、第４大単元で取り上げられ、正しい情報を入手し、発信することの重要さを認識させる内容が取り入れられている。なお、選択・判断する力の育成を第５大単元で、多角的に考える単元として第２・３・４大単元が設定されている。 **第６学年　…　我が国の政治と歴史、国際理解** ●６年では、主権者としての意識と政治の働きへの関心を高めるために、政治単元が第１大単元とされている。これまでの中学年の地域学習をふまえ、身近な事例と結びつけ、興味・関心をもって追究していく内容になっている。歴史単元では、児童の興味・関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産、歴史事象を精選して、歴史的なものの見方・考え方を身につけていくように配慮されている。世界の単元では、一人ひとりが国際社会の一員であるという立場に立って、ここでも身近な事例を通して具体的に追究していく内容にして、選択・判断する力の育成が示唆されている。また、**小中連携**をめざし、巻末に「中学校へ向かって」という、中学校社会科の学習を見通すことができるページが設定されている。
3 構成・配列		
①指導計画の作成と内容の取扱いとの関連	(1)児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るように配慮されているか。	●全学年にわたって、児童一人ひとりが**主体的・対話的で深い学び**を実現できるよう、学習問題を追究・解決する活動の充実が図られている。 ①**「主体的な学び」**を示唆するものとして導入がくふうされ、疑問を話し合い、学習問題をつくり、解決への見通しをもつことができる**問題解決的な学習**を推進している。(■③74-77) ②**「対話的な学び」**での「話し合い・交流」活動の充実と、**「深い学び」**での「多角的な思考と選択・判断する力」の育成を図るため、深め合いの内容を詳しく示し、児童の考えが深まっていくようすがイラストなどで示され、児童一人ひとりのふり返りのページが充実している。特に、選択・判断、もしくは多面的・多角的に考えることが求められている単元の「学習問題」や「さらに考えたい問題」の意見の交流場面では、**協働的な学びが実現できる「深め合い」活動**が設定されている。(■④70-71) ③国語科で培った言語に関する能力をもとにした授業展開を基本として全体が構成されており、**国語科との関連**がよく図られている。また、「見方・考え方コーナー」、「学び方・調べ方コーナー」、「キーワード」などが設定され、観察・見学、表現活動、問題解決的な学習などの質を高める手立てとなっている。(■③40、49) ④単元のまとまりのなかで、学習を見通し、ふり返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかなどについて考慮され、教材化が図られている。(■全体) ⑤「深い学び」を実現するためには「見方・考え方」を働かせることが重要になることから、社会的な見方・考え方の三つの視点と方法を、より具体的に示す**「見方・考え方コーナー」**が設けられている。比較・分類・総合などの具体的な思考方法や調査方法については、**「学び方・調べ方コーナー」**でも示唆され、事象の特色や意味などを深く調べ、考えることができる。(■⑥30、75、81 ⑤81)

教科書検討の観点から見た内容の特色②

教科書検討の観点		「小学社会」の特色
①指導計画の作成と内容の取扱いとの関連	(2)各学年の目標や内容をふまえて、事例の取り上げ方をくふうしているか。	●学習指導要領の内容をもれなく扱うとともに、各学年の目標を達成できるよう、適切な事例や事象が取り上げられている。また、学習指導要領において、地域の実態に合わせて選択して取り上げることが求められている単元は、学習指導要領に例示されている事例が選択単元や学習資料としてほぼ網羅され、掲載されている。(📖全体) ●3年「安全なくらしを守る」の火災と事故の事例では、どちらに重点を置いても学習ができるように配慮されている。(📖③94-125)
	(3)我が国の都道府県、世界の大陸と主な海洋の名称と位置について、身につけ活用できるよう配慮されているか。	●**47都道府県の名称と位置**については、全学年で取り上げられている。特に4年「日本の47都道府県を旅してみよう」では、都道府県の名称と位置を詳しく学習できるページが設定されている。(📖④8-13) ●4年「日本の47都道府県を旅してみよう」には、47都道府県について楽しく学べる**すごろくのアプリケーション**を教科書QRコンテンツとして設定しており、日本をすごろくでめぐりながら、都道府県の位置や名称、特色に親しむことができる。本コンテンツは、5年、6年でも活用することができる。 ●**世界の大陸と主な海洋の名称と位置**については、主に5、6年で取り上げられている。特に5年では、詳しく学習できるよう、ページが設定されている。(📖⑤10-11)
	(4)障がいのある児童などへの配慮について、くふうされているか。	**カラーユニバーサルデザインへの配慮** ●すべての児童が等しく学べるよう、**カラーバリアフリー**、**ユニバーサルデザイン**などを採用し、**特別支援教育の観点に配慮**されている。 ●一人ひとりの色覚の違いを問わず、多くの児童に見やすいよう、グラフ・地図については、色調や色の組み合わせの区別だけではなく、斜線やドットなども使用するなど、細部まで配慮されている。グラフは、要素ごとに黒色の境界線が施され、確実に数値を読み取ることができる。(📖⑤82、86) **読み取りやすさに配慮した教科書** ●紙面の本文が「学習内容(知識)」、「学習活動(技能)」、「友だちの発言(思考力・判断力・表現力等)」の三つに分けられ、学習内容や学習方法がわかりやすく構成されている。(📖全体) ●スムーズに読み進められるよう、「わたし(たち)の問題」などについては、読みやすいまとまりで改行されている。(📖全体) ●通常の教科書の文字を拡大するとともに、内容を把握しやすいように、写真等、図版を配置し直した拡大教科書が用意されている。 **学習のポイントや進め方がわかる教科書** ●社会科の学習にとって重要な用語は「キーワード」で示され、本文中で対応する箇所の文字はゴシック体で示されている。(📖⑥266) **社会科の学びの過程における困難さについての教科書のくふう** ●地図などの資料については、掲載する情報が精選され、視点が明確になっている。 ●社会的事象への興味・関心がもちにくい場合でも、社会の営みと身近な生活がつながっていることが実感できるよう、具体的な活動場面の写真や作業が示唆されている。 ●学習問題への気づきが難しい場合でも、社会的事象を読み取りやすいよう、写真などの資料がくふうされている。また、児童の多様な疑問や予想を話し合う交流がくふうされている。 ●情報収集や考察・まとめに対する指導のくふうと手立てとして、情報収集の仕方が「学び方・調べ方コーナー」で詳細に示されている。考察・まとめでは、「学び方・調べ方コーナー」で方法が示され、見本になるノートなどの表現物が多く示唆されている。
	(5)特別の教科 道徳など他教科や地域などとの関連を考慮しながら、社会科の特色に応じて、カリキュラム・マネジメントへの適切な配慮がされているか。	**特別の教科 道徳との関連** ●**特別の教科 道徳との関連**については、社会科の教科の特質に応じて道徳性を養うことができるよう配慮されている。 ●3年では、地域での見学や聞き取りにあたり、あいさつや電話の仕方、交通ルールを守ることなどが、礼儀や規則の尊重などと関連して「見学の計画」や「学び方・調べ方コーナー」で具体的に示されている。(📖③17、26)

教科書検討の観点		「小学社会」の特色
①指導計画の作成と内容の取扱いとの関連		●3年の第2、3大単元の地域の産業や安全、4年第4大単元の祭りや地域の先人の働きの学習では、学習を通して勤労や地域や社会に対する誇り、郷土愛を涵養することができる。また、5年第1大単元の国土の学習や6年第2大単元の歴史の学習において取り上げられている事例によって、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する心情を涵養することができる。 ●4年や6年での、国際交流や世界の国々の学習において示された事例は、国際理解や多文化共生の基礎を養うことに適している。(📖④192-199 ⑥234-257) ●6年の政治や現代史の内容では、公民的資質の基礎を養うことに適しており、主として集団や社会との関わりに関する内容と深く関連づけて指導することができる。(📖⑥36-57、214-227) **生活科との関連** ●社会科のスタートである3年の学習では、生活科で培われた直接的な体験や活動を通した「知的な気づき」(社会的認識の芽)をもとに、自分たちの住んでいる身近な地域や市について、空間(地理)的・時間(歴史)的認識を広げ、深めていくくふうが示唆されている。(📖③11、16) **国語科の言語活動との関連** ●社会科での見学や観察、調べたことを書く、話し合うなど、国語科の内容「話すこと・聞くこと」と「書くこと」に示された発達の段階をふまえ、表現活動が例示されている。(📖③40 ④65 ⑤105) **外国語活動・外国語科との関連** ●外国や我が国の文化について社会科で理解を深めたことを、地域や児童の実態に合わせ、外国語活動や外国語の教材にし、双方の学習が相互に効果を高めることができる。(📖④192-199 ⑥234-257) **総合的な学習の時間との関連** ●学習指導要領に示す内容を身につけている児童に対して、総合的な学習への関連づけとなるような、さらに深め、高めた学習内容が多数あり、児童の興味・関心に基づき、総合的な学習の時間に発展させることができる。(未来につなげる～わたしたちのSDGs～ 📖③42-43) **社会科におけるカリキュラム・マネジメント** ●**各学年1巻構成**が採用され、1年間の学習の見通しをもたせる学習やふり返り活動など、**カリキュラム・マネジメント**を意識した学習がおこないやすい構成になっている。(📖全体)
	(6)中学校との連携への配慮はなされているか。	●小学校で身につけておくべき社会的な見方・考え方や技能が、「見方・考え方コーナー」や「学び方・調べ方コーナー」で示され、習得することができる。(📖③37 ④204-205) ●6年巻末に設定された「中学校へ向かって」のページでは、**中学校社会科でどのようなことを学ぶのかが掲載**され、意欲をもって学習できるよう配慮されている。(📖⑥278-279)
	(7)ICTを活用して学習を効果的に進められるようにくふうされているか。	●社会科における**ICTの効果的な活用**を促進し、**情報活用能力を確実に育成**できるようにくふうされている。(📖⑤132-133) **教科書QRコンテンツ**(別冊『教科書QRコンテンツ』) ・デジタルならではの**個別最適な学び**を取り入れることができるように**教科書QRコンテンツ**が多数設定されている。 ・教科書QRコンテンツには、動画や教科書には掲載していない写真資料、ワークシート、関連しているウェブサイトへのリンクなどがあり、**二次元コード**から直接アクセスすることができる。 ・単元導入ページ、「学習の計画」、「見学の計画」、「見方・考え方コーナー」、「考えよう！SDGsコーナー」、小単元末ページには、**ワークシート**のコンテンツを用意し、主体的・対話的で深い学びができるようにサポートしている。 ・47都道府県について楽しく学べる**すごろくのアプリケーション**のコンテンツが用意されており、4年では都道府県の位置や名称、特色に親しむことができる。また、5年、6年では学習した内容と関連させながら47都道府県について学ぶことができる。 **デジタル教科書・教材** ・教科書に完全に準拠した**学習者用デジタル教科書(教材)／指導者用デジタル教科書(教材)**が用意され、動画、アニメーションなど、教師が電子黒板やテレビなどに提示できるコンテンツや、児童がタブレットなどで自由に操作できるコンテンツなどが取り入れられ、教科書とともに活用ができ、社会科学習の活性化に貢献できるように作成されている。

教科書検討の観点から見た内容の特色③

	教科書検討の観点	「小学社会」の特色
①指導計画の作成と内容の取扱いとの関連	(8)家庭学習への配慮はなされているか。	●巻頭では、**「社会科の学習の進め方」**や**「この教科書の使い方」**などが設けられ、学年を通して社会科の学習をどのように進めていけばよいのかを、いつでも確認することができる。さらに、本教科書の効果的な使い方がわかるようになっており、**学校、家庭、地域の連携**が示唆されている。(■全学年2-5) ●大単元末にある特設ページ「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」や、3年、4年、6年の巻末にある地図帳の使い方(■③158-159)、地図となかよしになろう(■④204-205)、歴史年表(■⑥※1～※6)などは、家庭での学習に活用することができるよう配慮されている。 ●随所に教科書QRコンテンツが設定されており、家庭学習においてもICTを活用した**個別最適な学び**を効果的に進められるように配慮されている。(別冊『教科書QRコンテンツ』)
	(9)学習で身につけられた内容について、どのように評価するのかが示唆されているか。	●小単元末などで例示されたノートやワークシート、ふり返りの話し合い、学習をまとめた作品などは、評価する際の参考となるよう配慮されている。(■⑤48 ⑥136) ●小単元末以外でも、ノートや学習カード例の示唆が配置され、評価の視点づくりの参考となるなど、**指導と評価の一体化**が図られるよう配慮されている。(■③19 ④64)
②内容の取扱いについての配慮事項	(1)地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるよう、表現・言語活動に関わる学習を充実・重視するよう配慮されているか。	●児童にとって特に身近に感じられる、**地域の特色を生かした地域教材の活用、開発**に配慮されている。 ●地域の素材を教材化しようとする際、教科書に示された、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるような教材化の手法や、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習、また、それに基づく話し合い活動や表現活動の一層の充実などを大いに参考にすることができる。 ●言語に関する能力を育成するため、国語科で培った言語に関する能力を基本に、観察や調査・見学などの体験的な学習や、話し合いの場面を充実させている。 ●社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことの交流やまとめ、ふり返りの表現活動が多様化されている。
	(2)すべての学年において、地図帳を活用するよう配慮されているか。	●3年、4年の巻末に「地図帳の使い方」、「地図となかよしになろう」が設定され、**地図帳の活用**を促している。(■③158-159 ④204-205) ●5年「1世界から見た日本」では、**地球儀や地図帳の具体的な活用方法**を示し、興味・関心をもって調べられるように配慮されている。(■⑤12-13) ●6年「3世界のなかの日本とわたしたち」では、日本とつながりが深い国々から調べる国を選ぶポイントの一つとして**地図帳の活用**を促している。また、選んだ国について地図帳を使って調べているようすを例示している。(■⑥235)
	(3)学校図書館や図書館、コンピューターなどを活用し、情報の収集やまとめなどをおこなうよう配慮されているか。	●学習問題を追究・解決するための見通しを立てる「学習の計画」において、調べ学習を行う方法の一つとして学校図書館や図書館の本で調べるように促している。(■③61 ④17) ●コンピューターなどの活用については、**教科書QRコンテンツ**が設定され、各学年の各単元で電子黒板などの大型提示機器や個人端末(タブレットなど)を活用しながら、学習が効果的に進められるように多数のコンテンツが用意されている。(■全体)
	(4)博物館や資料館などの施設を活用するなど、内容に関わる専門家や関係者、関係諸機関と連携を図ることができるよう、配慮されているか。	●3年「4市のようすとくらしのうつりかわり」で市立博物館の見学・体験を、また、4年「4地いきの伝統や文化と、先人のはたらき」での歴史文化博物館の見学や学芸員からの聞き取りなどの活動例を示し、多くの単元で、内容に関わる専門家に話を聞いたり案内をしてもらったりする活動が示唆されている。(■③130-132 ④139、153、157、161) ●6年「2日本のあゆみ」の導入ページにおいて、身近な地域にある博物館を探検し、調べる学習を通して博物館見学のポイント等、歴史学習の基本を学べるようにしている。また、特設ページ「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」では、博物館の学芸員からの聞き取りの活動例が示されている。(■⑥62-65、104)
	(5)児童の考えが深まるようさまざまな見解を提示するよう配慮し、児童が多角的に考えたり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることのないよう配慮されているか。	●全学年を通して、**社会的な見方・考え方を働かせながら学習問題を追究・解決する活動**を通し、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断できるよう配慮されている。 →3年「3安全なくらしを守る」、4年「2健康なくらしを守る仕事」、5年「5国土の環境を守る」、6年「3世界のなかの日本とわたしたち」など ●全学年を通して、社会への関わり方を**多角的**に考えることができるよう配慮されている。 →3年「4市のようすとくらしのうつりかわり」、5年「4情報社会に生きるわたしたち」、6年「1わが国の政治のはたらき」など ●未確定な事柄について、歴史的問題や国際問題などにおいて、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げることなく、児童の発達の段階を考慮し、公平性に配慮されている。(■⑤18 ⑥224-225)

	教科書検討の観点	「小学社会」の特色
③教材の選択、組織・配列、分量	(1)教材の選択 各学年の社会的事象・事例などの選択に対する配慮はどのようにされているか。	●**公正性・正確性**については、教材の選定、記述にあたって、内容が一面的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分に吟味・検証した教材が掲載されている。また、主として児童の発言の形式によって、一つの事象をさまざまな視点から考えようとする学習が例示されており、公正性や正確性について適切な配慮が行き届いている。(■全学年) ●学習指導要領の各学年の「内容の取扱い」において示された、「…の中から選択」、「事例地を選択」、「…の中から一つを取り上げる」などを受け、各学年とも適切に事象や事例が選択されるとともに、主教材のほかに**選択教材**が設けられ、各地域や学校の実態に対応することができる。(■③60-73 ④100-105 ⑤50-57 ⑥46-51)
	(2)組織・配列 児童の発達の段階を考慮し、学習が効率よく進められるように配慮されているか。	●**児童の思考の流れを重視した組織・配列**になっている。児童が自ら見つけ出した問題を解決するために、調べ学習などの具体的な学習活動を通して理解を深め、追究し、気づくとともに、調べたことや考えたことを表現していく問題解決的な学習の過程がわかりやすく配列されている。 ●各小単元の原則毎見開きの最初に「わたし(たち)の問題」が設定されている。また、小単元には、学習問題が設定され、学習の区切りの最後に学習問題について考えたことを交流する場面とともに「さらに考えたい問題」が設定されることで、児童の思考の流れを考慮した、組織・配列となっている。 ●二学期制を導入している学校に対する配慮として、各学年の単元構成は、前期と後期にも配分しやすく配列されている。
	(3)分量 内容の精選と焦点化が図られ、分量は適切か。	●児童の主体的・対話的な学習活動が展開できるように内容の重点化が図られ、小単元ごとに十分な調べ学習や話し合い活動などができるよう、適切な時数が配当されている。 ●学習内容についての情報や資料、追究過程が原則見開きページにまとめられ、コンパクトに配分されている。
④SDGsと関連のある現代的な諸課題への対応	(1)社会の持続可能な発展に関する内容	●環境、貧困、人権、平和、開発など、**社会の持続可能な発展に関わる問題**について、**SDGs**と関連させながら児童の発達の段階に応じて取り上げられている。(■③55 ④167 ⑤181 ⑥27) ●SDGsを自分ごととして考え、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向け、自ら考え、行動ができる児童を育む教育(ESD)を推進しやすいようにくふうされている。 ●SDGsに関連した内容を**「考えよう！SDGsコーナー」**で取り上げ、日本や世界では、今どのような問題があるのか、解決するためにどのような取り組みがされているのかを調べたり、考えたりすることができるようにくふうされている。 ●特設ページ**「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」**は、単元の学習を終えて、もっとくわしく調べてみたいことや、気になったことをSDGs と関連づけて取り上げられている。 ●特設ページ「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」や巻末にある学年の学習をふり返るページでは、巻末綴じ込みの**SDGsの目標シール**を使いながら、学習したことが、SDGsとどのように関連があるか考えを深めることができる。
	(2)人権・福祉に関する内容	●全学年を通し、人権尊重を基本理念として、**共生社会**をめざす姿勢がたいせつにされている。 **3年、4年**　市(区)町村や都道府県に密着した学習を展開することを通して、地域の人々と触れ合う活動や、人々の営みや働く姿への共感をもてる学習活動が設定され、地域に対する愛情を育てるとともに、地域の人々の願いを感じ取り、地域の一員として積極的に働きかける展開になっている。 **5年**　日本の国土や産業、環境を学習することを通して、人権・福祉に関わる問題があることに気づかせるとともに、それらの問題を解決するための取り組みについても触れ、働く人の人権を守ること、共生社会の実現、これからの社会のあり方を考えさせようとしている。 **6年**　政治単元では、人々の願いとその実現への営みを追究していくことを通して、人権・福祉の問題が政治との関わりを通して取り上げられ、現代社会におけるこれらの問題の解決に取り組む構えをもたせようとしている。歴史単元では、人々の社会生活向上へのあゆみを追究していくことを通して、代表的な歴史上の人物の働きとともに民衆のくらしや願い・思いに着目させ、人間尊重の精神や人権意識を育てていくように配慮されている。日本と世界の単元では、国際社会のあり方を追究していくことを通して、地球規模での共生社会の実現に向けて考えさせている。 **●高齢社会の問題** ・高齢者との交流や、第一次産業の従事者や農山村、都市の高齢化などの事例を通して、高齢化の進む社会のあり方について考えさせようとしている。(■③154-155 ⑤122-123 ⑥14-15) ・3年・5年・6年において障がいのある人の姿や、ユニバーサルデザインやバリアフリーに関する教材などが取り上げられ、人権や福祉に関わる多様な問題に目を開かせようとしている。(■③87 ⑤156 ⑥16-17)

教科書検討の観点から見た内容の特色④

教科書検討の観点		「小学社会」の特色
④SDGsと関連のある現代的な諸課題への対応	(2)人権・福祉に関する内容（続き）	**●働く人の問題** ・全学年において、「労働」についての意義をつかませ、働く人を見つめることを通して、**人権尊重・人権確立**をめぐるさまざまな問題について考えさせようとしている。（📖全体） ・５年「３工業生産とわたしたちのくらし」などでは、働く人の高齢化や女性の割合の低下など、**現代日本の産業が直面する問題**をふまえ、働きやすい職場環境の整備や先端技術の活用などの取り組みを紹介し、働く人々の人権の問題に目を向けさせようとしている。（📖⑤182-191） **●部落問題** ・部落差別の解消は、国の責務であり、国民の課題であることをふまえ、６年の政治・歴史単元において、近世の幕藩体制下における身分制度を中心に、中世・近代・現代を通して位置づけられている。（📖⑥16-17、134、142-143、226-227） **●先住民のアイヌ民族や外国人の人権問題** ・先住民のアイヌ民族や日本でくらしている外国人、特に在日韓国・朝鮮人に対する偏見や差別については、憲法学習・歴史学習をふまえて、この問題に取り組む姿勢をつくろうとしている。（📖⑥16-17、146、226-227、230-231、248-251、272-273） **●女性の人権問題** ・６年の憲法学習での男女平等の問題、歴史単元での地位の向上を求め続けた近代の女性の姿などが取り上げられるだけでなく、各学年の学習のなかで、女性の活躍するようすが示され、**男女共生社会**の実現に向け、現代の問題として取り組ませようとしている。（📖⑥14-15、189、190、216）
	(3)我が国の国土と歴史への理解と愛情に関する内容	**●公民的資質の基礎** ・３年で身近な地域から市のようす、４年で県のようす、５年では、国土の地理的環境とそこで営まれている産業のようすなどの理解が図られ、**我が国の国土に対する理解と愛情**を育てようとしている。６年では、中学年での地域の人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きの学習をふまえ、**我が国の歴史への理解**を深めるよう配慮されている。（📖全体） ・このような学習により、**平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、互いに尊重し、義務や責任を果たそうとしたり、公正に判断したりする態度や能力**を育成できる。 **●伝統や文化の尊重** ・３年「１わたしたちの住んでいるところ」では、自分たちが住んでいる市の古い町なみなどを観察したり、昔のようすやいわれを聞き取ったりすることで、今も残る古くからある建造物に興味をもたせるようにしている。 ・４年「４地いきの伝統や文化と、先人のはたらき」では、県や市に伝わる祭りや文化財、年中行事の調査を通して、人々の知恵や願いに気づかせるようにしている。 ・５年「１日本の国土と人々のくらし」では、気候や地形にあわせた人々の生活を調べ、独特な伝統や文化を捉えられるようにしている。 ・６年「２日本のあゆみ」では、茶の湯や生け花などの今に残る室町文化の体験的な学習や、江戸時代の町人文化を調べていくなかで、それらの文化が外国へも影響を与えたことや、今も親しまれていることなどを捉える学習から、児童が日本の伝統や文化を実感として捉えられるよう配慮されている。「３世界のなかの日本とわたしたち」では、世界の国々とスポーツや文化を通した国際交流をするために、わたしたちが何に取り組めばよいかが示唆されている。 **●国旗と国歌を尊重する態度の育成** ・国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけられるよう、我が国や外国の国名や国旗が示され、我が国の国旗と国歌の意義を理解し、尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を育てるように配慮されている。（📖③88-89 ④199 ⑤15 ⑥236、255）
	(4)平和・国際理解に関する内容	**●平和問題** ・各学年の学習のなかで、**平和で豊かな共生社会の実現**を視点に、発達の段階をふまえて社会的事象が教材化されている。 ・３年「４市のようすとくらしのうつりかわり」では、コラムにおいて戦争があったころの学校のようすについて扱い、約80年前に日本で戦争があったことや、戦争は人々のくらしに大きな影響を与えたこと、戦争は悲惨なものであることを理解させ、平和を希求する態度を養えるようにしている。 ・６年「１わが国の政治のはたらき」では、日本の平和への願いと憲法の平和主義について触れられ、次の「２日本のあゆみ」の「アジア・太平洋に広がる戦争」で、当時の国際情勢をおさえつつ、日本の対外政策のあり方について考えるとともに、戦争の悲惨さがわかるように配慮されている。「３世界のなかの日本とわたしたち」では、現在の平和の問題とそれに取り組む日本と日本人の姿が、具体的事例で示され、平和を願う地球市民としてこれからのあり方を考えさせようとしている。

教科書検討の観点		「小学社会」の特色
④SDGsと関連のある現代的な諸課題への対応		**●国際協調** ・各学年の学習のなかで、外国との結びつきを通して、**国際化の進展**を実感するとともに、**国際協調**のたいせつさが認識できるように配慮されている。また、それぞれの国の文化や伝統を理解し、お互いに尊重し合うことが必要であることをおさえている。 ・４年「５わたしたちの住んでいる県」では、多文化共生社会にも目を向けさせ、児童たちがグローバル社会に対応できるように構成している。 ・５年「３工業生産とわたしたちのくらし」では、貿易の問題を通して外国との交流や協調の重要性に気づかせるとともに、フェアトレードなどの事例を紹介して、国際社会の問題と自分たちのくらしが直結していることを理解させることを通して、国際化の進展を実感させるとともに、国際協調のたいせつさを認識できるように配慮されている。 ・2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）については、５年「３ 工業生産とわたしたちのくらし」の「これからの工業生産のあり方を考えよう」、特設ページ「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」、６年「３世界のなかの日本とわたしたち」の「文化による国際交流」で紹介されている。
	(5)環境問題に関する内容	●**自然環境**や**生活環境**について、児童の発達の段階に応じて、自分の家庭や身近な地域から、広く地球規模の問題にまで関心をもち、それらの問題を考えていくよう全学年を通して系統的に位置づけられている。 ●６年「１わが国の政治のはたらき」では、公害を乗り越えた水俣市を選択事例として取り上げ、自然との共生と地域の発展を両立させようとする取り組みを紹介し、持続可能な社会を構築することの重要さを考えさせようとしている。 ●６年「３世界のなかの日本とわたしたち」では、地球規模の環境問題を取り上げ、自分たちにとって切実な問題として考えさせようとしている。
	(6)情報社会に関する内容	●学習指導要領の情報を収集する技能、読み取る技能、まとめる技能を育てようとする意向を受け、**情報の収集や整理**をおこなうとともに、**学習の内容を発信**する活動が、学年の系統と児童の発達の段階をふまえ、学習展開のなかで適切に位置づけられている。 ●全学年を通して、「学び方・調べ方コーナー」で地図、カード、年表、標語などのつくり方や聞き取りの仕方、資料の集め方やインターネットの使い方、調べたことや考えたことのわかりやすい発信の仕方などが取り上げられ、**情報活用能力の育成**が図られている。（📖全体） ●**プログラミング的思考**を育成することができるよう、学習問題をつくるまでの過程が丁寧に示され、学習の見通しをもって計画的に学習に取り組むことができるように配慮されている。（📖全体） ●５年「４情報社会に生きるわたしたち」では、気象情報が具体的事例として取り上げられ、情報化の伸展の意義を体感させるとともに、情報社会がコンピューターをはじめとする情報技術によって支えられていることに気づくなど、これからの情報社会を生きる児童に必要な資質を身につけさせようしている。 ●情報モラルについても取り上げられ、適切に情報を取り扱うことができるよう配慮されている。（📖⑤208-209）
	(7)健康・消費者に関する内容	●人々の健康な生活や良好な生活環境について理解し、**地域社会の一員としての自覚**をもつことができるように、児童の発達の段階をふまえて教材化されている。 ●３年「２わたしたちのくらしとまちではたらく人びと」では、商店としてスーパーマーケットが取り上げられている。販売者側のくふうだけでなく、消費者が上手な買い物をするため、価格のほかに、安全性の観点から、品質・産地・賞味期限などを考え、店や商品を選んで購入していることをおさえている。また、工場や農家の生産現場においても、安全な食品をつくることの重要さをおさえている。 ●４年「２健康なくらしを守る仕事」では、健康な生活の維持と向上を図るうえで欠かせない飲料水が取り上げられている。命とくらしを支える水がいつでも使えるよう、大量に確保されていることをおさえている。 ●５年の産業の学習では、農業・水産業・工業のいずれにおいても、消費者のニーズをふまえて生産がおこなわれていることが適切に示されている。また、「５国土の環境を守る」では、公害問題について自分の生活との関わりを多角的に捉えさせ、国民の健康を守ることのたいせつさ、国民一人ひとりの協力の必要性に気づくようにしている。 ●６年「２日本のあゆみ」 では、各時代の食事のようすなどが取り上げられている。伝統的な食文化や、食に関する知識や興味・関心を深められるよう、食の視点に関しても配慮されている。

教科書検討の観点から見た内容の特色⑤

教科書検討の観点		「小学社会」の特色
④SDGsと関連のある現代的な諸課題への対応	(8)防災・安全に関する内容	●3年「3安全なくらしを守る」では、地域社会における消防と警察が取り上げられ、人々の安全を守るための働きを学習することができる。 ●4年「3自然災害から人々を守る活動」では、自然災害から人々を守る活動として、風水害、地震、津波、火山、雪による災害が取り上げられている。災害の規模だけでなく、行政や地域での取り組みが紹介され、**「自助、共助、公助」**の観点で構成されている。 ●5年「5国土の環境を守る」では、「自然災害から人々を守る」の内容が充実している。東日本大震災を事例に、**防災・減災**に関する取り組みや、防災のための情報の働きも取り上げられている。また、東日本大震災を事例にした「産業へのえいきょう」では、宮城県の漁港の水あげ量や日本国内の自動車の生産台数の移り変わりなどが取り上げられている。 ●6年「1わが国の政治のはたらき」では、**災害復旧**の取り組みとして、平成26年と平成30年の広島豪雨災害で被災した広島市が選択事例として取り上げられ、主教材とほぼ同等の扱いの充実した教材として掲載されている。また、「コラム」では、復興交流館「モンドラゴン」の活動が紹介されている。
4 正確性及び表記・表現		
(1)児童の発達の段階に応じた文字の大きさ・文字数・文章表現などがなされ、わかりやすいようにくふうされているか。		●本文は、学習の進め方や児童の追究活動を中心とした記述となっており、児童の**「主体的・対話的な学習」**を支援する手引きとなるよう配慮されている。(📖全体) ●本文に対応して、児童が書いた「見学メモ」、「○○さんのノート」、「○○さんがまとめたワークシート」など、調べ方や調べたことの整理の仕方などが例示されている。その際、児童の発達の段階をふまえ、使用する用語・語句を吟味するとともに、学習の流れが理解しやすいように表現が配慮されている。(📖③82-83) ●漢字は、原則として当該学年の配当漢字までが使用されている。**当該学年以上の配当漢字には、すべてにふりがな**がつけられ、読みの抵抗を少なくするよう配慮されている。(📖全体) ●文字は、誰にでも見やすく読みやすい**「ユニバーサルデザインフォント(UDデジタル教科書体)」**が使用され、読みやすい大きさで示されている。(📖全体)
(2)写真・イラストなど各種資料は、正確で効果的に示されているか。		●全体を通して、特に導入ページ(大単元、歴史単元は小単元)では、**インパクトのある写真やイラスト**を中心に構成されている。そして、大きな判型(AB判)が採用され、さらに迫力のあるページ構成となっている。 ●学習展開に沿って、生き生きと追究活動に取り組む児童の姿などが、写真資料としてレイアウトにくふうを凝らして掲載され、児童の学習意欲を喚起しようとしている。 ●教科書の内容を読み取りやすいよう、本文が三つに分けて記述されている。 ●地図・グラフなどの資料については、最新のデータが採用され、必要に応じてその出典・年次・場所などを明記して正確性を期すとともに、学年の系統と児童の発達の段階に配慮した表現方法がとられている。
5 造本		
(1)大きさや判型への配慮		●**AB判**を採用し、写真やイラストを大きくして児童の興味・関心をひきやすくなるように配慮されている。
(2)印刷の鮮明さ		●文字や写真、イラストなどの印刷は鮮明で、読み取りやすく、児童の興味・関心を高めることができる。
(3)堅牢さと装丁のくふう		●製本は通常の無線綴じよりも丈夫なあじろ綴じが採用され、従来の針金綴じよりも本が大きく開くように改良されている。
(4)使いやすさへの配慮		●表紙は美しく丈夫な表面加工が施されているが、名前の記入欄だけは加工をのぞくといった細心の配慮がなされている。 ●学習内容をより効果的に見せられるようくふうし、学習効果を高められるようになっている。
(5)安全・健康への配慮		●教科書の表紙には、従来よりもくふうされた表面加工を施すなど、化学物質に過敏な児童に少しでもやさしいものになるよう配慮されている。
(6)環境への配慮		●植物油インキが使用され、環境にもやさしい本である。
(7)軽量化への取り組み		●各学年1巻構成の採用に伴い、児童の負担をできるだけ軽減するため、本文用紙は十分な強度を有する**軽量化した再生紙**が使用されている。